とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都府中市晴見町２－７－１７
園名	府中市立中央保育所

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

野菜を育ててみよう。

＜テーマの設定理＞

日常の中で自然や食べ物が育つ過程に触れる機会が少なくなってきていることから、実際に自分たちの手で野菜を育てる体験を取り入れたいと考えた。苗植えや水やり、観察といった一連のお世話を継続することで、命の成長を実感し、食べ物への興味・関心を高めることを目指す。また、友だちと協力して世話をするプロセスを通し、互いを思いやる気持ちや責任感を育むきっかけとし、本テーマを設定した。

２．活動スケジュール

活動内容	**時間/回**	**人数**
① ピザ作り	３０分	５～６人
② 赤・緑ピーマンの収穫食べ比べ	３０分	２１人
③ 観察・収穫	２０分	２２人
④ 試食	３０分	２２人

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動① 前日に野菜の収穫

＊保護者への食育活動の事前告知、給食室との事前打ち合わせなどの連携を図る。

活動② 前日にピーマン・ナスの収穫

＊保護者への食育活動の事前告知、給食室との事前打ち合わせなどの連携を図る。

活動③ はさみ

＊ホールからゴーヤの生長がよく見えるため日々観察をすることができていた。

活動④ 片栗粉、塩、油、ケチャップ、しょうゆ、鰹節、味噌、砂糖、包丁、水

＊子どもたちの声から味付けを決めた。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

活動①　自分たちで育て収穫した野菜でピザ作りを行う。
活動②　図鑑で見た赤ピーマンが収穫できたので、食べ比べをする。
活動③　観察日を設定した。設定したその日に発見があることが少なく興味を示さなかったため、日々の保育の中での子どもの言動に耳を傾け活動をした。
活動④　収穫したゴーヤをどのように調理して食べるか子どもや給食室と相談をして決めた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

活動①　自分たちの収穫した野菜を使って、大好きなピザを作れることに期待しこの日を迎えていた。野菜が苦手な子も自分でピーマン・ナスを載せている子も多く、全く口にしなかったのは２人のみ。自分で調理することで更に楽しくおいしく感じたという感想が多かった。また作りたいのリクエストも多かったので、９月以降に第２弾を計画し、繰り返しの経験を楽しんでいきたい。

活動②　図鑑で見た『たまにできる赤いピーマンは甘いらしい』という情報から、うっすら赤く色づいたピーマンを楽しみに日々観察している子も見られた。実際の食べ比べで素焼きにしてもらったが、「ちょっとやわらかい」、「にがくない」と「甘い」のワードは保育者が「甘い？」と聞いても子どもたちから出てこなかった。子どもたちの思う「甘い」ではなかったのではないかと推測する。

活動③　ツルが伸びていく様子などは珍しくないようで観察日を設定しても興味を示す子は少なかった。雄花、雌花があることに気づく子はいたがほとんどの子は興味を示さなかった。実ができ、大きくなりはじめた頃から日増しにゴーヤの変化について声を上げる子が多くなってきた。普段遊んでいるホールからゴーヤの生長がよく見えるので、日々大きくなっていることや色づいてきたことなど子どもの声を聞きながら収穫してきた。収穫したゴーヤを手にしたり、においを嗅いでみた。オレンジ色になったゴーヤはそのままにしておくとどのようになるか観察したいという声が上がり、そのままにしておいた。去年は、割れて赤い種が出てきた。今回は割れずにぺちゃんこに萎れてしまったことに驚いていた。

活動④　収穫時期に子どもたちに相談をした。食した経験がない子も多く、“どうやって食べるか？”ということが想像できなかったので初回は栄養士、給食室に声をかけ苦みが和らぐ調理法（天ぷら）にした。その後は子どもたちの方からこんな味にしたいと発信してくれるようになった。味なし、みそ味、醤油味、ケチャップ味、ゴーヤチャンプルなど食べた。






５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・苦手意識のある野菜を育てることは、その後に収穫し食べることを知っていたため興味の持続が難しかったが、『近づく虫』や『色の変化』など、視覚的なワクワクに視点を置くことで、好奇心の継続を促すことができた。
・『栽培、収穫、ピザづくり、食べる』までの一連の食体験を通し、子どもたちの興味関心の広がりや、継続して食べる経験をする中で、少しずつ抵抗感が薄れ、結果として食べられる子が増えていく姿が見られた。食育において実体験の積み重ねと楽しいと思える友だちとの共感力の大切さを実感する体験になった。
・ゴーヤは、昨年度も栽培していたため、子どもたちにとってもの珍しさはなく、はじめはクールなリアクションだった。ゴーヤが成長をしはじめ変化が表れると、子どもの方から発見の報告があった。何気ない日々の中で、子どもたちは様々な発見をし、興味が膨らんでいることを感じた。
・ゴーヤをどのように調理して食べるか相談しながら食べた。苦手な子も一口は食べる姿があった。オレンジ色に熟れたゴーヤは苦みがないということを聞き、ゴーヤチャンプルに入れてもらったが、食感が柔らかく強い苦みがあり不評であった。みんなで色々な味のゴーヤを食べることができ、また、緑からオレンジに変化するその後のゴーヤの姿を観察し、驚きや発見をクラスの子どもたち全員が共有できたことは良い体験となった。